SINOPSIS

山田の『たそがれ清兵衛』に反映された集団主義：
文学の社会学の考察

序論

映画は“動く絵”であり、19 世紀からすでに存在していた。映画は初めてアメリカで制作され、現在までに世界中に広がっていた。それから 1890 年に日本に入り、第二次世界大戦後に開発された。色々なテーマの日本映画が登場したので、この時期は「最盛期」または、「ゴールデンエイジ」とも呼ばれた。日本の多くの映画が上演し、いくつかの成功した日本映画が国際的に浸透していた。日本映画のゴールデンエイジには、質が高い映画を制作するのに非常に才能のある映画製作者がいた。その映画製作者の一人は山田洋次であり、「たそがれ清兵衛」を制作した。

この映画から、様々なことを調べることができ、たとえば、社会の側面のことである。その社会の側面は文学の社会学の一部である。文学の社会学は社会の側面を考慮して文学作品の理解することである。実際に、文学の社会学はプラトンとアリストテレスの時代から存在された。ただし、この用語は１９世紀に多くの哲学者や作家や歴史家などによって使用されたばかりであり、その１人はアラン・スウィンドウッドであった。彼の本には、スウィンドウッドは文学の社会学の３つ概念を提供していた。その３つの概念とは、“文学作品は時代を反映すること”と、“製造プロセスと原作者から見えたこと文学作品”と、“文学作品と歴史の関係”である。

日本人の生活の中では、どこでも集団生活の習慣がある。この研究では、集団主義、恩、義理の概念を分析する。集団主義とは、“paham berkelompok”または、“Collectivism”であり、実際に昔から感じられ、

Universitas Kristen Maranatha

当時に日本人はグループで生活し、“稲作”をしていた。ただし、この用語は２０世紀に使用されたばかりである。この用語を強調した専門家の 1 人は中根である。この理解は３つの部分に分けられ、「集団思考」と「集団生活」と「集団意識」になった。その３つの概念は日本における集団意識の重要性について議論された。

ベネディクト（1946、144）は恩と義理についてこのように書いた。恩とは、他の人から与えられた恵み、いつくしみのことであり、“負担”になって、払い戻さなければならない。義理とは、ある１つの“負担”を払い方である。義理の中で、２つの分類があり、「一人のためにの義理／giri to one’s name」と「世界のためにの義理／giri’s to the world」である。

本論

「たそがれ清兵衛」の映画は、江戸時代後期にいる侍、イグチ・セイベイである。この映画は江戸時代を反映し、政治的、経済的、文化的から見え、特に、集団主義を反映する。この映画でも、イグチ・セイベイにキャラクター開発が起こっていた。最初はかっこ悪く、朴念仁である。ただし、映画が流れ、彼は変更していた。３つの集団主義の概念はこの映画で例えば、“飲み会”の時に強く感じることができる。

クサカ　：「それでしてもヤザキ、何とかならないかの・・たそがれ種類は」
ヤザキ　：「はぁ・・・」
クサカ　：「着物は少し破れている、風呂さも入りにくいなのか・・脇さよるでも、匂いだにあいつ。ああー！本当に醜い！」
ヤザキ　：「はい・・これが仲間も見ていられでしたけ、何とかのちぞようとは少しあったて辞めましたどうも、どうも駄目ですの・・・条件悪すぎるもの。」
クサカ　：「なるほどの・・・」
ヤザキ　：「三人、二人の娘、もう老躯した婆様、５０石うどいてもお借り金を分かりと手取り３０石。これでや、まるで内職苦心に嫁にいくよもんでがんすかげの・・・」

「たそがれ清兵衛」(07:25-09:04)

Universitas Kristen Maranatha

この場面では、集団主義の概念を見せた理由は、上下関係と同級の中で統一があり、グループの結びを強化した。結びを強化することでは、グループの各メンバーが連帯感の表れるため、各メンバーの状況を把握しており、共同で問題を解決される。

この前にイグチ・セイベイはいつも侮辱されると悪口になっても、ある成果が達成されるため、イグチの周りに良くない考え方を変更した。この成果は「一人のためにの義理」である。「一人のためにの義理」と言うのは侮辱を削除することである。映画のエピローグで、イグチ・セイベイは「世界のためにの義理」性格を現れ、最後まで忠実に候のために戦った。

結論

「たそがれ清兵衛」には、集団主義はっきり反映された。この反映はすべての場面からいつも強いグループの結びを現れていた。表した状況はまるで本物の状況のようであり、江戸時代後期はこの文学作品の基本対象になっていた。この映画も、恩と義理にはっきり反映された。イグチ・セイベイの動作から困難な状況を解決し、そして自身の悪いイメージを変更し、結局は良くなった。

Universitas Kristen Maranatha

DAFTAR ISI

HALAMAN PENGESAHAN.....i

HALAMAN PENYATAAN ORISINALITAS.....ii

PERNYATAAN PUBLIKASI SKRIPSI.....iii

KATA PENGANTAR.....iv

DAFTAR ISI.....vi

DAFTAR GAMBAR.....viii

BAB I PENDAHULUAN

1.1 Latar belakang.....1

1.2 Rumusan Masalah.....6

1.3 Tujuan penelitian.....6

1.4 Metode dan pendekatan.....6

1.5 Organisasi penulisan.....9

BAB II LANDASAN TEORI

2.1 Sosiologi Sastra menurut Alan Swingewood.....10

2.1.1 Karya Sastra merupakan Cerminan Sosial.....13

2.1.2 Sejarah dan Karya Sastra.....15

2.2 3 Konsep *Shudan-Shugi* 19

2.2.1 *Shuudan-Shikou*.....22

2.2.2 *Shuudan-Seikatsu*.....23

2.2.2 *Shudan-Ishiki*.....23

2.3 *On* dan *Giri*.....25

BAB III ANALISIS FILM

3.1 Pencerminan *Shuudan-Shugi* dalam film.....29

3.2 Faktor yang membuat seseorang dapat diterima kembali ke dalam kelompoknya.....42

BAB IV KESIMPULAN.....51

DAFTAR PUSTAKA.....53

SINOPSIS.....x

RIWAYAT PENULIS.....xiii

DAFTAR GAMBAR

Gambar 3.1 Iguchi Seibei ditegur oleh daimyo clannya (tengah).....30

Gambar 3.2 Paman Seibei datang dan menegur Iguchi Seibei atas kelalaiannya karena tidak mandi.....33

Gambar 3.3 Iguchi Seibei yang berpenampilan buruk.....35

Gambar 3.4 Iguchi Seibei yang sudah berpenampilan lebih baik.....35

Gambar 3.5 Iguchi Seibei diperlihatkan menolak ajakan Nomikai bersama rekan-rekannya.....36

Gambar 3.6 Rekan-rekannya kembali membujuk Iguchi Seibei untuk nomikai, namun ia kembali menolak.....37

Gambar 3.7 Iguchi Seibei bekerja di ladang saat tidak bekerja di tempat kerjanya.....38

Gambar 3.8 Iguchi Seibei membuat kerajinan tangan dimalam hari.....38

Gambar 3.9 Atasan (tengah) bersama Rekan-rekan kerjanya melakukan nomikai.....40

Gambar 3.10 Iguchi Seibei mengalahkan Koda.....43

Gambar 3.11 Rekan-rekannya mengetahui kabar Iguchi Seibei mengalahkan Koda, mulai saat itu juga, rekan-rekannya mulai menghormati Iguchi Seibei.....44

Gambar 3.12 Iguchi Seibei diperintahkan Daimyo pengganti Tuan Hori untuk melaksanakan misi.....46

Gambar 3.13 Kusaka menjaminkan tunjangan kepada anak-anak Iguchi Seibei apabila Iguchi Seibei tewas saat menjalani misinya.....48

Gambar 3.14 Dalam Epilogue Film tersebut, Ito menceritakan akhir hidup Seibei.....49